

IV-192

景観評価言語に関する考察—平安時代・現代—

東京大学大学院 学 新谷 景一
大成建設 中村 太一
山梨大学工学部 正 北村 真一

1.はじめに

我々は、ある風景を眺めた時ある印象を受け、その印象を「美しい」のように語ることがある。ここで、言葉と風景に対応関係¹—『言語体系』(ラング)と『どのような状況で使われているか』(パロール)の関係²—が成立している。

「どのような景観をどのような言語で評価しているかを知ること。」は、景観工学において重要な課題である。本研究では、景観を見るみかたを知る手掛かりとして平安時代と現代の景観評価言語にどのような言語があり、どのような体系³及び特徴があるか分類・整理・比較⁴した。

2.作業の手順

景観を評価している言語(形容詞・形容動詞)を書籍等から抽出する。平安時代の言語に関しては、『古語大辞典』(中田 祝夫編・監修;小学館;1984)で語義、及び脚注より使用状況を確認する。現代の言語に関しては、『国語辞典』(西尾 実 他2名 編;岩波書店;1971)で語義を確認する。次に言語1語につき1枚にカード化し、分類・整理・比較する。

3.平安時代

対象作品から185語抽出し状況に応じて分類した結果、16群86語に整理され代表32語を選出した。(図-1,表-1)

表-1 平安時代の景観評価言語-代表32語

群	単語	群	単語
1	あて・なまめかし	9	しげし・はるけし
	きよら・おもしろし	10	つきなし
2	おぼおぼし	11	つれづれ
3	をかし・あはれ	12	さびし
	らうらうじ・しめやか	13	わびし・あいなし・くるし
4	すずろ		うとまし・らうがはし
5	きはやか・くまなし	14	すごし
6	つきづきし	15	よし・よろし
7	たぐひなし		わろし・あし
8	あやし・くすし	16	いみじ

*使用文学作品

作品は『日本文学史 新訂版』(守随 豊治ら監修;第一学習社 昭和51年 改訂12版)を参考にして、『伊勢物語』『土佐日記』『枕草子』『蜻蛉日記』『和泉式部日記』『更級日記』参考作品:『源氏物語』とした。

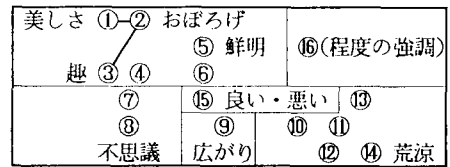


図-1 平安時代の景観評価言語体系図

4.現代

1)都市空間に関する景観評価言語

専門書・新聞で都市空間に関して用いられる評価言語を抽出・分類・整理した。ここでは被修飾語の空間レベルを都市・街・街並み・建物・STREET FURNITUREとしてまとめた。(表-2~表-6)

*使用書籍等

- ・朝日・日本経済新聞(国会図書館)
- ・日経アーキテクチュア(創刊号~851118)
- ・建築文化別冊『アーバンデザイン』(1985.05)
- ・都市住宅(8508)
- ・SD別冊『横浜』(1983.11)
- ・建築と社会『都市景観』(1982.05)
- ・芦原 義信『街並みの美学』
- ・鈴木 昌道『都市と緑と景観構成』
- ・建設省監修『うるおいのあるまちづくり』

表-2 都市

1 美しい	(12)
2 魅力ある	(8)
3 活気のある	(4)
3 非人間的な	(4)
5 快適な	(3)
5 潤いのある	(3)
5 のっぺらぼうの	(3)
5 整然とした	(3)
5 人間的な	(3)
5 伝統的な	(3)

()内は頻度

表-3 街

1 美しい	(17)
2 きれいな	(7)
3 画一的な	(6)
4 潤いのある	(5)
5 魅力的な	(4)
5 清潔な	(4)
5 自然を感じる	(4)
5 活気のある	(4)
5 統一性のある	(4)
5 調和のある	(4)

表-4 街並み

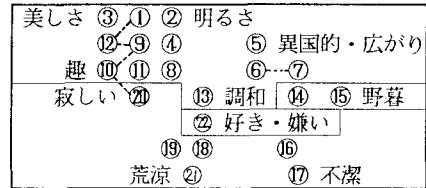
1 美しい	(31)
2 歴史的な	(16)
3 伝統的な	(11)
4 良い	(8)
5 整った	(8)
6 個性的な	(7)
6 魅力的な	(7)
6 古い	(7)

表-5 建物

1 美しい	(4)
1 優れた	(4)
3 伝統的な	(3)
3 ユニークな	(3)
5 新しい	(2)
5 開放的な	(2)
5 象徴的な	(2)
5 表情に乏しい	(2)
5 華麗な	(2)

表-6 STREET FURNITURE

1 美しい	(4)
1 けげげばしい	(4)
3 個性的な	(3)
3 調和した	(3)
5 目立つ	(2)
5 醜悪な	(2)
5 洋風の	(2)



2) 一般的な景観評価言語

4-1)に写真集・観光パンフレット・庭園集等を更に加えて評価言語を抽出したところ、213語収集できた。これを分類した結果、22群102語に整理され代表51語を選出した。(図-2、表-7)

表-7 現代の景観評価言語-代表51語

群	単語	群	単語
1	懐かしい	12	日本的な
2	新鮮な・明るい・澄んだ・軽やかな	13	調和のとれた・なじみやすい・整然とした
3	多彩な・美しい・華やかな・上品な	14	単調な・目立たない
4	温かい	15	田舎くさい・野暮な
5	鮮烈な・興味深い・独特な	16	下品な
6	異国的な	17	不潔な
7	大陸的な・堂々たる・広大な	18	不自然な・なじみにくい・目立つ
8	生き生きした・張りのある	19	異常な・不思議な・不気味な
9	古風な	20	寒々とした・寂しい・ひなびた
10	のどかな・繊細な・趣のある・幽玄な	21	重い・暗い・荒涼とした・殺伐とした
11	垢抜けしている・都会的な	22	好きな・嫌いな

5. まとめ

- (1) 平安時代の評価対象は、主に自然景観であり、
(あて・なまめかし) - (おもしろし) ⇔ (わびし・らうがはし) - (すごし)
という、(美しい) ⇔ (荒涼) の二軸対極性がみられる。
- (2) 専門書・新聞での現代都市空間に関する景観評価言語の語彙はやや限定されている。「美しい」は各空間レベルにみられ、「魅力的な」は都市・街並みのレベルで特に多い。「歴史的な」「伝統的な」は大部分が街並みのレベルで抽出され、「画一的な」「潤いのある」「活気のある」「調和のある」「統一性のある」は、街のレベルに多くみられる。
- (3) 現代の一般的な景観評価言語は群間の結びつきが弱いと思われる。また平安時代が1つの概念のさまざまな状況に対して言語が存在していることが多いのに対して、現代では形容詞・形容動詞の重ね合わせでこれに対処している。
- (4) 平安時代と比べて「おぼろげなるものに対する美しさ」「しんみりした寂しさ」が現代では弱まり、重量感的評価・異国との対比評価が出現している。「美しさ」「趣」「鮮明」「広がり」「荒涼」は共通した評価概念になっている。

6. 今後の課題

今回は平安時代・現代を対象にして景観評価言語を分類・整理した。現在鎌倉時代について分類・整理中である。今後更に室町時代・江戸時代・明治時代について抽出・分類・整理をしていきたい。

<参考文献>

- 1) 金原 省吾:『美の表現について』青磁社 昭和18年11月20日 初版
『傾きの美』晃文社 昭和22年06月01日 初版
- 2) ソシュール; 小林 英夫訳:『一般言語学講義』岩波書店 昭和59年08月10日 第13刷
丸山 圭三郎:『ソシュールを読む』岩波書店 昭和60年05月20日 第06刷
- 3) 久鬼 周三:『情緒の系図』岩波書店 昭和57年09月20日 第06刷
- 4) 大野 晋:『日本語の年輪』新潮社 昭和54年02月20日 第27刷